



聖書を読む会 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCC ビル内 No. 124

ウェブサイト: <https://syknet.iimdofree.com/> Email: sykoffice21@gmail.com

Facebook: <https://www.facebook.com/FB.SYK> 郵便振替: 00180-9-81537

2021/12/1 発行

ジョン・ウェスレー 3

ーウェスレーと小グループー

東京フリー・メソジスト教団 桜ヶ丘キリスト教会主任牧師
聖書を読む会 元理事長 お茶の水聖書学院講師
水口 功

今まで2回にわたり、18世紀に英国で神の国の進展のために労したジョン・ウェスレーの聖書論、聖霊論について取り上げました。ウェスレーが終生所属していた英国国教会の中で、彼がリーダーシップをとって実践した小グループの働きがメソジスト運動でした。メソジスト運動の目的は、個人の靈性訓練と社会的靈性の実践でした。

ウェスレーのメソジスト運動が生まれた背景として、次の三つのことが指摘されています。第一は、ジョン・ウェスレーを中心とした4名で始めたオックスフォード大学内でのホーリークラブ（1729-35）でした。そこでウェスレーは、個人の靈性訓練（祈り、聖書、断食）、互いに分かちあうこと、交わりの力、個人的な聖化の求めと社会活動のバランスを考えた集まりを続けました。二つ目は米国ジョージア州のサヴァンナ・ソサエティー（1735-37）でした。ウェスレーがジョージア州サヴァンナで宣教活動に携わった期間、現地の自宅で20-30人が集まるグループをつくり、定期的な祈り、賛美、聖書研究、信仰の交わりによって信仰的な助け合いを目指しました。それは当時親交のあったモラヴィア派の分かち合いの方法を、グループ活動において導入したものでした。この時、ウェスレーは国教会の司祭でありながら、「教会内の小さな教会」の原理を体験したのでした。ウェスレーの三つ目の体験がフェター・レイン・ソサエティー（1738年5月1日創立）でした。それは国教会の中で行われていた「敬虔会」とモラヴィア派のバンド（班会）が

結合したようなグループでした。このグループでは国教会の教理、規則を奉ると同時に、モラヴィア派の班、愛餐会、互いの告白などを、集まりの中で採り入れました。ここでウェスレーが強調したことは、宣教と超教派的な交わり、また信徒が積極的に活動に参加し用いられることでした。

これらの出来事後、ウェスレーは1738年5月24日に、アルダスゲート街の集会で霊的刷新を経験しました。その後、彼は先の三つの体験を生かしながら、メソジスト運動の指導者になりました。メソジストの霊性に基づく小グループ活動は、外的要素<小グループのメンバー同士の愛（隣人愛）>と内的要素<純粋な愛に基づく主イエスとの親密な交わり>を目指しました。具体的にはバンド（班会）と組会（クラスミーティング）が形成されました。バンドはモラヴィア派から影響を受けた小グループの集まりで、メソジスト運動における核心的な組織でした。年齢、性別、結婚の有無などそれぞれの置かれた立場を考慮して構成された、信仰を持ち霊的成長を願う5～10人のメンバーが、定期的集まりました。バンドのメンバー間では、集まる時間や頻度などについて、きちんとした規則を設けました。もう一つの小グループの集いであった組会は、英国ブリストルで1742年に始まった組織でした。1745-46年にはメソジストの典型的な集会のパターンとして全国的に広がりました。組会は求道者も含め、だれもが所属できるウェスレーたちの独自の組織として発展しました。メンバーは、12人で構成されメンバー各々が日常生活の問題を報告し合い、祈りや具体的支援を受けていました。そして助言や忠告が必要に応じて与えられ、祈りと感謝をもって会を閉じることを繰り返しました。

コロナ禍で、私たちは今まであたりまえのように持っていた教会全体の集まりが制限される経験をしてきました。しかしそのような中でも、1対1や少人数の集まりや、オンラインを活用した個人的な交わりの機会を得ることができています。昨年10月に聖書を読む会が、聖書同盟とウィクリフ聖書翻訳協会とスモールグループセミナーを共催しましたが、その後も企画に携わった方たちと交わりを継続し、小グループによる伝道や交わりのための研鑽を積んでいます。21世紀になって、すでに20年経った現在、直面しているコロナ禍において、既存の教会における小グループ活動（「教会の中の小さな教会」）の進展のために、250年前にウェスレーを中心として実践されたバンド、組会から教えられる点がとても多いのではないのでしょうか。

（次号に続く）

SYK 便り

新理事長就任のご挨拶

久遠キリスト教会牧師 三浦真理



この度理事長に就任しました三浦真信と申します。私は現在、東京都杉並区にあります久遠キリスト教会の牧師をしています。

学生時代にキリストの恵みを受け取って、嬉しくて聖書を貪るように読むようになりました。またその後、大学のクリスチャンの集まりに参加し、グループ聖研を通して神さまから多くのことを語りかけていただきました。みことばによって、罪の苦しみから解放され、神さまに喜んで仕えたいと願う人生に導かれました。

聖書を読む会で発行しているテキストが用いられ、また一人の場所でも小グループを通してでも、みことばの素晴らしさを多くの方が味わい、みことばで生きることが出来ますようにと願っています。どうぞよろしくお願いたします。

在欧日本人宣教会主催、「秋のセミナー」で講演



「使徒の働きに学ぶ、ローマ帝国を変えたスモールグループ」という題で、2021年10月9日に、オンラインによるセミナーが開催され、ヨーロッパだけではなく、アジアも含め70名もの方々が参加しました。講師としてSYK総主事、また、スモールグループの司会のために他の主事2名、そして、ボランティア1名が参加しました。スモールグループを実践したい、実践しているがもっと学びたい、という方々が多くおられることを改めて知り、SYKの使命を確認しました。

「ルカの福音書」好評発売中

2021年4月15日に発行したこの手引は、すでに350冊も受注・在庫しています。多くの方々が福音書の学びに興味を持ち、この手引が期待されていることを実感しています！表紙を飾るのはフェルメールの「マリアとマルタの家のキリスト」



「詩編（抜粋）-主は王となられた-」11月発行

手引出版のための指定献金 35 万円が 9 月 29 日をもって満たされました！！多くの方々の尊い献げ物、心より感謝します。



聖書協会共同訳準拠、新改訳 2017 対応のオリジナル手引が 11 月に発行されました。これは、日本聖書協会（JBS）からご提案いただいた共同企画で、JBS の「詩編を読むために」と同時発売となり、JBS が本手引も積極的に宣伝してくださっています。この企画を機会に、手引が今までの SYK の利用者以外の方々目に触れ、広く用いられることを期待しています。本手引では、詩編についての短い解説に続き、13 の詩編が聖書協会共同訳本文付きで取り上げられています。

詩編記者たちは、感謝と賛美を献げるだけでなく、嘆きのうちに主に向かって叫び、主が王となられて全地を平和で満たす時を待ち望んでいました。旧約聖書、また新約聖書の神の民は、どのような思いで詩編に向かったのでしょうか。共に詩編を学び、味わいましょう。（A5 版、96 ページ、700 円+税）



新刊「歴代誌」準備中・出版指定献金の受付を始めます！

現在、「歴代誌」（新改訳 2017 準拠）の執筆が終わり、編集作業に入っています。「歴代誌」を最初に読んだのは、捕囚から帰還しても異邦人による支配の下で苦しんでいたユダヤ人でした。彼らは過去を振り返って神の恵みを思い出し、将来の解放を待ち望んでいたのです。それは、主イエスが来られた時のユダヤの人々の信仰に通じるもので、「歴代誌」は福音書を理解する上でも大切です。遅くとも来年度初めに出版したいと考えています。

この出版のために、是非ご支援ください。

編集後記

また冬が巡ってきました。昨年のように、里山が何度か雪に覆われるのでしょうか。詩編の記者たちは、厳しい現実の中で、メシアが、平和と正義で世界を満たす時を待ち望みました。ちょうど厳しい冬の向こうに春の到来を待つように。KS

